

かわぐち よしいち
川口 好市さん

とみつか未来塾 代表

●子どもたちの健やかな成長を目指して

「とみつか未来塾」は、未来を担う子どもたちが自然とふれあい、健やかに成長するようにと願いを込め、富塚地区を中心に様々な活動をしている。

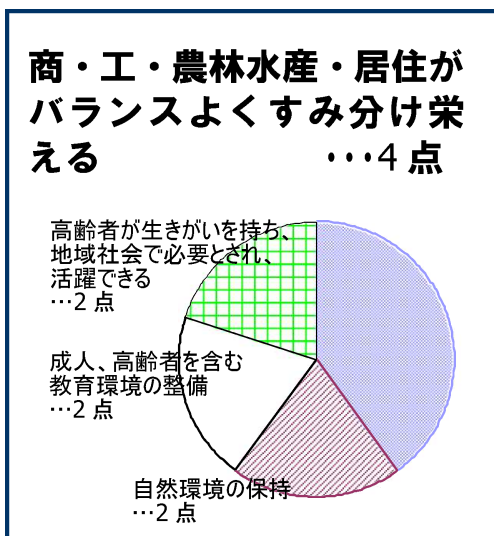
個人単位で田畑を借用して農作業する体験とは異なり、会員（親子）と未来塾のボランティアスタッフとで共同作業を行う。お互い見ず知らずの子どもたちや若い世代の父母、高齢化したボランティアスタッフとの世代を超えたコミュニケーションは、収穫の喜びを共有し合い、活動が大いに活性化する原動力となっている。現在塾生は 45 世帯、132 名が登録し、平成 24 年度は延べ 1,519 名が活動した。



●ものづくりの集積地、他に誇れる交通システム

昔から浜松市は自動車や楽器などの製造業の集積地であり、産業の成長に伴いこの地域は発展を遂げてきた。しかし、経済・社会情勢の変化により、地域の町工場などが倒産していく姿を見て、製造業にとって、大変な時代になったと感じている。そんな中、市民も行政も、今まで培ったものづくりの DNA を継承し、何ごとにも創意工夫で挑戦する気概をもってまちづくりに取り組んでほしい。

また、浜松市の中心街はきれいで、浜松駅前のバスターミナルに向かうと、スムーズに目的地に向かえるバス交通の設備や案内、サービスも行き届いており、他の都市と比べても誇れるシステムであると感じる。更なる活性化に向け、地域や中心街での企画やイベント情報を、官民一元的に情報共有を図って、市民が必要な情報を簡単に知ることができる仕組みがあるとありがたい。



【浜松市への期待度グラフ】

●自然とのふれあいを通じて、地域の「絆」を育てる

「とみつか未来塾」は、10 年以上にわたる、地域の河川の美化活動や農業体験などを通じて、「生命の大切さ」、「自然との共生」、「人と人との交流や心のふれあい」、「労働の大変さや実りへの喜びと感謝」など、子どもたちの心の成長を促してきた。

様々な活動を親子や仲間と行うことで、同じ地域で生まれ育った「緑」が地域の「絆」を強め、地域コミュニティが育ち、活動が子育ての原点となる家族とのふれあいの時間に繋がる。これから益々このような活動が重要になってくるだろう。

かわせ こうし
川瀬 幸嗣さん

エネルギー使用合理化専門員、環境カウンセラー
労働安全衛生コンサルタント、浜松市環境学習指導者

●地域全体でコミュニティづくりを

今後、核家族や単身世帯が増加すると言われている。時代は逆行しないから、再び拡大家族が形成されることは難しいだろう。かつての拡大家族のような各世代が助け合う関係を、まち全体でコミュニケーションを取れるようなしくみがあれば良いのではないだろうか。今までは、アメリカやヨーロッパを見習って、産業等発展させてきたが、この高齢化社会・人口問題に関しては世界の先進国となる。日本が試行錯誤して解決しなければならない。世界の見本となることが求められるだろう。

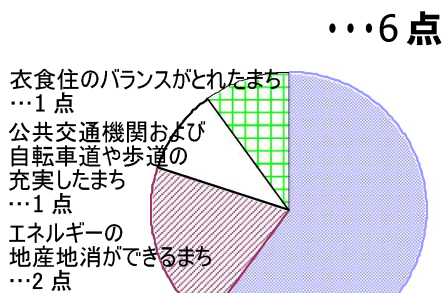


【川瀬幸嗣さん】
経済合理性を伴った実現可能な環境教育
を推進していきたい。

●環境先進都市をめざして

浜松市が再生可能エネルギーを推進していることに感心している。浜松市は温暖で日照時間が長いことから、太陽光発電等により、地の利を活かしたエネルギーの創出を目指すことは、今後も推進してほしい。浜松市には自動車及びオートバイメーカーがある。そこで、太陽光発電等を普及させるとともに、二酸化炭素及び有害ガスを排出しない電気自動車、電気オートバイ及び電動アシスト自転車を普及させることは、浜松市にとって非常にアドバンテージのあることだと思う。浜松市にはまだ自前のエネルギーが少ない。自らエネルギーをつくり出し、そのエネルギーを利用して産業を発展させることが、効率の良いエネルギーの地産地消となり、災害にも強くなる。浜松市の主な交通手段は車であり、30年後としても車社会は変わらないと思われる。電気を使った交通機関や輸送用機器を整備することは、環境先進都市・環境産業の育成として浜松の強みになると思う。

若者から高齢者まで生涯にわたって働ける環境・産業があるまち



【浜松市への期待度グラフ】

●実現可能な環境教育の普及

最近、環境問題への意識が高まり節電が盛んであるが、省エネの指導をしていると、エアコンの温度上げることや照明を消すなど多少無理をしなければならない省エネに取り組んでいる。実は見えないところでエネルギー捨てていることが多く、私の活動を通して効率の良い省エネを普及させたい。

また、今の省エネは経済合理性と切り離されてしまっている場合が多い。環境問題を解消するにも、経済合理性が備わっていなければ、実現困難なのが現状だ。現在、企業レベルでは初期投資を補助してくれるESCO事業等があるが、個人向けにも同様のインセンティブを与えるような政策を整備して、正しい知識が普及すれば、益々省エネが進むと思われる。

きたむら としじ
北村 敏治さん

浜松市街路樹愛護連絡協議会

(西丘を住み良くする会街路樹愛護会)

●政令指定都市に相応しい中心市街地を！

バブル崩壊後、大企業等の市外流出が続いたことで、下請けや中小企業が倒産したり、雇用が大きく減った。リーマンショック後の外国人労働者の帰国などと併せ、労働者人口が大きく減ったと実感している。

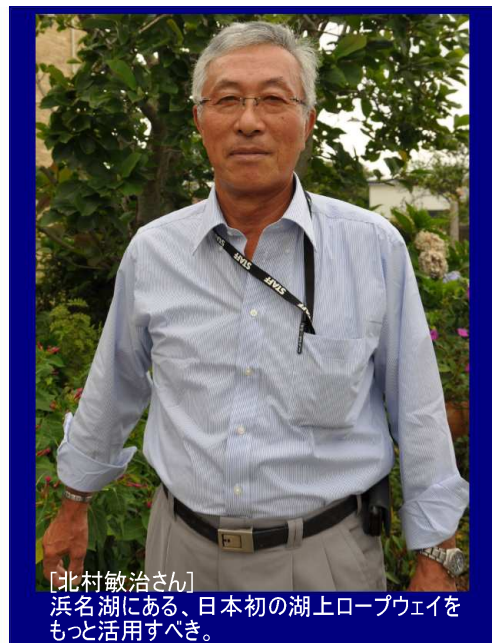
また、郊外に大規模な住宅地がたくさんできたことで、人口が郊外に移動し、中心部が空洞化している。政令指定都市として、中心市街地の活性化は、重要な課題であり、静岡市の例などを見ても、商業やサービス産業を中心市街地に誘致させることが必要ではないか。

それとともに、他の政令指定都市での成功例を見ても、中心市街地に車の乗り入れを制限し、バスや電車を市民が利用することで、中心部を人が歩くまちづくりを進めるべきと考える。

●中山間地域の空き施設を活用した、市民の交流促進を！

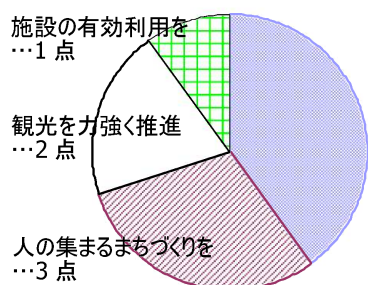
合併後、浜松は、広大な面積を有し、山、川、海など、様々な自然環境がある都市となったが、市民が十分に交流できていないと感じる。

中山間地域と都市部の市民が交流するきっかけづくりとして、中山間地域の公共施設の空きスペースを有効活用し、高齢者から子どもまでが地域の特色を学んだり、交流する拠点を整備してはどうか。



【北村敏治さん】
浜名湖にある、日本初の湖上ロープウェイをもっと活用すべき。

政令指定都市のモデルに …4点



【浜松市への期待度グラフ】

●地の利を活かした観光交流を！

浜松は、日本の中心にあり、JRや高速道路など、日本の大動脈が多数通っている。全国的に見ても、国際色豊かで、観光資源が多い。

製造業が下火になる中、人を集め浜松の経済を活性化させるきっかけとして、観光面における浜松の強みを活かしてはどうか。具体的には、館山寺温泉について、民間企業やボランティアを積極的に活用することで、明るく新しいイメージに刷新するような取り組みが必要と考える。

これと合わせ、ホテル、遊園地、動物園をはじめ、近隣の施設が、一層連携し、一体化する取り組みを進めることで、エリア全体の魅力を高める相乗効果を狙うべきである。

くほ まさこ 久保 真子さん

家庭教育の会ハートフル

●家庭教育の大切さを伝える

会員のボランティア活動を中心に、家庭教育推進運動を進めている『家庭教育の会ハートフル』は、健全な家庭教育の推進のため、子育て講演会や家庭教育フォーラムなど、様々な活動をおこなっている。

中でも、今年で12回目となる「心のこもった家族への手紙コンクール」では、家族への思いを文章にすることで、家庭の大切さを再認識してもらいたいと強く願っている。応募作品の手紙や絵画には、家族の温かさがこもった内容が多く、涙なしでは審査できないが、中には恵まれない家庭状況が伝わる作品もある。

このような活動を通じて、家庭教育の大切さについて市民の皆様の関心を深め、市民一人ひとりがそれぞれ家庭教育に注目してもらえるようになってほしい。

●まちなか大好き！だが・・・

浜松駅南側に在住しており、買い物などは駅前で済ませることが多い。まちなかが大好きでイベントなどがあるとよく足を運んでいる。しかし、現在は郊外に大型商業施設が多く建ち、その影響か昔に比べて活気が失われているように思う。私が子どもの頃は、「週末はまちいくで！」と言っては、西武百貨店や松菱の屋上で遊び、映画館にもよく行った。動物園と市が運営するプールが現在の市役所近くにあった時代だったので、まちなかには思い出がたくさん詰まっている。なんとか、中心市街地を活性化できればと思うのだが・・・。



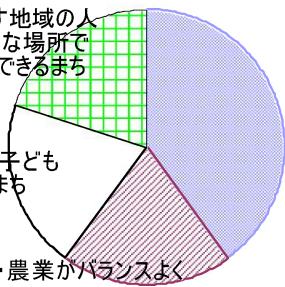
【久保真子さん】
学区の小学校で、読み聞かせや図書貸し出しボランティアに携わり、地域活動にも熱心。
なお、熱狂的な浜松市のマスコット「家康くん」の大ファン

若者が未来への希望を感じ、定住したいと思うまち …4点

一緒に暮らす地域の人たちが、様々な場所で関わる事ができるまち …2点

高齢者にも子どもにもやさしいまち …2点

商業・工業・農業がバランスよく栄えるまち …2点



【浜松市への期待度グラフ】

●子育て時代の大変な経験を活かして

私自身、子育て当時、仕事と育児の両立で悩んでいた。子どもが夏休みになると預ける場所を探すために奔走。放課後児童会は定員オーバーで入れず、近くの私立保育園も空きがなく、市から紹介された在宅での預かり保育も断られた記憶がある。最終的には無認可保育園へ。いろいろな経験をし、仕事と育児の両立の大変さは誰よりも理解していると思う。

現在は、以前よりも施設が多く、また、子育て情報サイトなどでの情報収集も容易になり、大変恵まれた環境で育児ができる時代になったと感じる。しかし、今もなお待機児童がいる中で、今後は、子育て支援施設を、だれもがいつでも利用できる環境づくりが大切だと考える。

くろやなぎ ちほこ
黒柳 千穂子さん

北区女性団体連絡協議会（きたっこ）事務局長

おおの としえ
大野 登志江さん

北区女性団体連絡協議会（きたっこ）運営委員

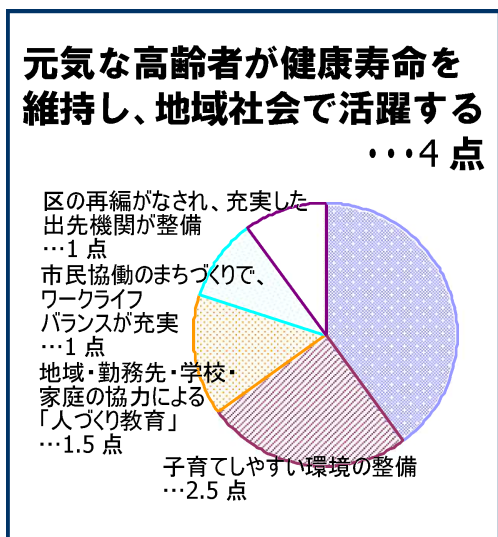
●「きたっこ」のまちづくり

会員数は1,858人。38団体で構成している。北区の4地域をまとめ、女性の視点から生活の中の課題を解決、また、女性自らが活躍できることに取り組んでいる。ほおずき市などの地域イベントやコミュニティの活動を通して、暮らしやすいまちづくりに貢献している。東日本大震災などの大規模な災害時には、女性にしか対応できないことも数多くあったと聞く。女性の力はコミュニティの中でも大きいはずである。

北区は4つの市町が合わさった行政区であり、それぞれの地域の考えをまとめる難しさを強く感じた。その時に必要だったのが話し合いをする「場」。30年後の将来を考えると、高齢化が進み、まちづくりで活躍するのは高齢者であると考えている。将来においても活動の拠点が必要で、無料の市民協働スペースは極めて重要である。市民協働を推進する上でも、活動しやすい環境づくりを更に進めてほしい。人と人がつながり合って、支え合う世の中になっていけばと感じる。実現は市民活動のヤル気につながる。

●みんなの浜松！の意識を広めたい

総合計画では、市民協働のまちづくりを進める上で、社会関係資本を大切にしている。これは、とても良い考え。効率的な行政運営を進めるために制度の統一などは必要であるが、市民を置き去りにしている感覚を受ける。浜松の市域は広く、北区はその特徴を凝縮した地域。地域の良いところは更に伸ばしていきたい。



【浜松市への期待度グラフ】



【黒柳千穂子さん(左)／大野登志江さん(右)】
 きたっこの「ほおずき人形」がオランダ園芸博覧会(H24)に出展。25年度は、引佐町の廃校を利用して作品展示等を行う。今、準備に忙しい。

北区にも大切な文化財が数多く残っている。三ヶ日町宇志には「雨乞いの面」や平安前期の史跡「瓦塔」という歴史的資産が。また、「浜名記」といった江戸後期の書物が個人宅で保管されている。現在の方法では、こうした貴重な文化財が消えてなくなることが心配。次世代に引き継ぐために保管のあり方などを考える必要がある。

また、個人と地域、行政の結びつきを更に強めていくことが必要。「広報はままつ」は個と行政を結ぶ太い絆であったが、簡素化されたのはマイナスである。地域密着の取り組みが大切で、区役所においては「コミュニティ担当職員」が極めて重要な役割を担う。今後、個と地域、行政を結ぶ要として活躍することを期待したい。

（公社）静岡県 宅地建物取引業協会浜松支部さん

支 部 長：木俣純一さん

副支部長：高橋美代子さん 副支部長：澤木光吉さん

●時代にあった中心市街地活性化を！

松菱の破綻や大丸の進出断念を見ても、百貨店が人を集め、中心市街地で買い物をするというビジネスモデルは既に終わっている。市では様々な補助事業などを行って対策を取っているが、あくまで対症療法に過ぎず、衰退の流れは止められない。大手ディベロッパーに開発を任せても、地域の実態に合わないミニ東京のような提案が出るだけではないか。

むしろ、近年駅前のマンションが人気化する中、発想を転換し、居住機能を高めた災害に強いまちづくりを進めてはどうか。具体的には、空き地を活用して都市中心部に憩いの場を提供し、災害時には活動拠点とする。また、マンションの低階層部分をスーパーや病院とし、ファミリー世帯から高齢者世帯まで、歩いてアクセスできる生活圏とすることも考えられる。

●地域にあった土地政策を！

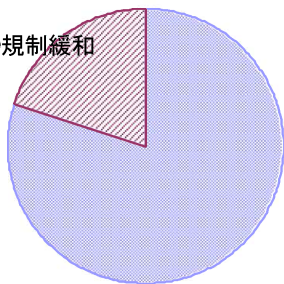
東日本大震災は、浜松の土地利用にも非常に大きな影響を与えている。特に、津波被害が想定される地域では、土地の買い手がつかず、工場も移転の意向が強い。しかしながら、三方原台地など開発ニーズの高い地域は、省庁の縦割りからなるいくつもの規制により、移転できず不満も根強い。安全、安心な市民生活の実現や、地域産業の発展や雇用を確保するためにも、実態に合った土地利用規制になるよう市政には頑張ってもらいたい。

●市民ファンドによる新産業の創出を！

浜松は製造業が中心となり経済を支え、温暖な気候や充実した医療機関などにより、住みやすいまちである。また、リーマンショックなどの経験を見ると、製造業の好不況に地域経済全体が左右されやすい。30年先は、製造業だけでなく多様な産業が地域経済を支えているような仕組みをつくるのが大事だが、それは行政が育成するのではなく、市民みんなが応援するような工夫が大切である。例えば、地域の大学が持つ先端技術を応用し、新たな産業の芽を育てるとともに、ベンチャー企業の資金を供給する市民ファンドがつけられ、配当などが還元されるような仕組みをつくれないうか。

生活水準が今よりも低下
せず、新産業の創出や企業
誘致に力を ……8点

役所の規制緩和
……2点



【浜松市への期待度グラフ】



【(公社)静岡県宅地建物取引業協会浜松支部さん】
我々の業界は、土地取引を通して地域経済の変化を肌で感じることができる。

●中山間地域に配慮したまちづくりを！

中山間地域では、これまで地域に住みコミュニティの核となっていた役場の職員が配転を機に転出せざるを得ず、地域は一気に衰退していると耳にする。

人口減少時代において、コンパクトシティを進めることが必要だと聞かすが、都市部もあり中山間地域もある浜松の現状にあった形で考えるべきではないか。

こだま あつし 児玉 惇さん

浜松読書文化協会 会長

●市立図書館の活性化を！

民間活力を導入するため、図書館への指定管理者制度を進めている。市民にとってまず必要なことは、選書やレファレンスなど、職員の専門的資質、能力を充実させ、利用しやすい図書館を目指していくことであると考える。

電子書籍や資料のデータベース化等、ICT化などの環境の変化に乗り遅れないよう積極的に取り組んでいく姿勢が大事である。また、現在進めている、小中学校の図書館との連携を、高校や大学まで広げていく発想が必要である。

さらに、浜松市の図書館は、県内で唯一、一般向け図書会の文庫本を保有しており、これを広く活用してはどうか。



●コミュニケーションを充実させる教育を！

子どもたちを見ていて、近年、人間関係の構築が下手になってきたと感じる。

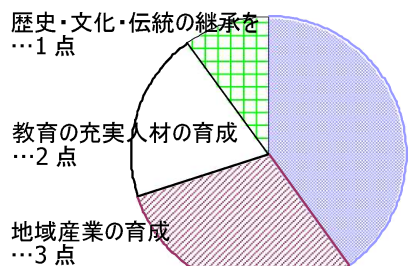
コミュニケーションの基礎は、言葉にある。覚え、考え、聞き、表現することは、どれだけ言葉を知っていて、使いこなせるかに左右される。

学校教育でも、「ことばの教育」が土台である。読書もさることながら、小学校から相互に議論する時間を設けてはどうか。

●人が自然に集まる中心市街地を！

浜松市中心部は、現在、活気に乏しく、行政の様々な取り組みにも関わらず、衰退を食い止められているとは言えない。交通網を整備しても、市民にとって行きたい、行きやすい場所であれば、人は集まらない。中心部には衣食住に係るものが集積しているのだから、例えば、医療福祉施設を立地させ、自ずと人が集まる仕組みをつくってはどうか。発想の転換が必要である。

高齢者が安心し、若者が希望を持つまちを…4点



【浜松市への期待度グラフ】

●地域の隠れた魅力発見を！

浜松は、気候が温暖にして豊かな自然や、特徴ある歴史文化がたくさんある。

しかし、特産物に関しても、みかんなどの一部のものを除き、高付加価値・ブランド化されているものがない。

ホオヅキやガーベラなど、既に全国的なシェアが多いことから、これらをブランド化し、収益の拡大に結びつけるとともに、観光への活用など、様々な方向に展開してはどうか。

浜松には隠れた魅力がまだ残されている。

こばやし めり
小林 芽里さん

浜松 NPO ネットワークセンター 事務局長

●住みやすいまち、浜松

浜松市に住んで 11 年目になる。海から 2000m級の山まで、多様な自然環境がある。世界的な産業や新幹線の駅がありながら、農村風景とも共存し、バランスのとれた住みやすいまちだと思う。市民の気質も親しみやすく、市外との交流も盛んである。

私は東京で生まれ育ったが、東京にあって浜松に足りないものは思い浮かばない。職住接近で、職場も近く、正直なところ浜松市がこれ以上大きくなってほしいとは思わない。今の浜松市に満足している。

●新しいコミュニティづくり

高齢者や単身者が増える社会に向け、家族でなくてもお互いに支え合えるコミュニティの再構築が必要だと思う。かつての農村共同体を理想とする人もいるが、そういう旧来のしがらみや男女差別が嫌で都市に出てきた人もいる。今のコミュニティの良いところを活かしつつ、障害のある人や外国人などのマイノリティも含めて、多様な人たちが共生するソーシャル・インクルージョンを地域から実践してほしい。NPO でも市民の自発的な活動を進めていきたい。

●耕作放棄地の有効活用

人口減少に伴う中山間地域の衰退や里山の耕作放棄地など、農業や農村景観が衰退していることが気になっている。耕作放棄地を都市部の人で活用できるしくみや、ボランティア等が耕作放棄地を活用し、里山の自然を維持するしくみが必要だ。個人の土地を柔軟に活用できるしくみがほしいし、地域内の自給自足・循環型社会を進めていきたい。私は中区の里山の保全に関わっているが、活動している人は高齢者が多い。高齢者だけでなく、若い人にも参加してほしい。NPO の活動としても、楽しく市民参加ができるように仕掛けていきたいと思っている。

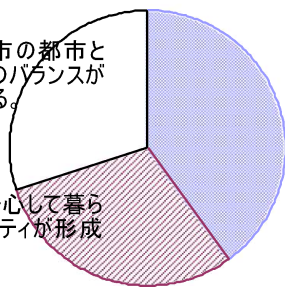
●文化の多様性を強みに！

浜松市は約 80 か国の外国人が住むインターナショナルな街なので、多文化共生を強みにし

多文化共生を強みとする インターナショナルなまち …4 点

今の浜松市の都市と自然環境のバランスが保たれている。
…3 点

高齢者が安心して暮らせるコミュニティが形成されたまち
…3 点



【浜松市への期待度グラフ】



【小林芽里さん】
NPO の隣接分野が互いに協力し合える環境を作るために、現在活動している。

ていくよう総合計画にも盛り込んで欲しい。人口減少による労働力の不足は、外国からの労働者に頼らざるを得ないし、また外国人の配偶者やそれに伴う子どもの呼び寄せも増えている。

日本は外国人の増加にネガティブな面を心配する人も多いが、彼らの持っている多様な文化はすごくユニークでパワーがある。ますますグローバル化する時代に、彼らの多文化な力をポジティブにとらえて活用すれば、浜松市も元気になるのではないかと。

日本で生まれ育つ外国人も増えていて、彼らも子育て世代になりつつある。NPO では浜松育ちの移住二世世代の外国人が、地域で活躍できるように活動している。文化の多様性を浜松の強みにしていきたい。